

中国における金融政策運営

要 約

今日の金融体系が十何年間の金融管理体制改革によって整えられてきた。中央銀行の設立、專業銀行や商業銀行の設立、金融市場の育成などがそうである。2節ではこれについて述べる。

3では、金融政策の二段階的なアプローチに関連して、経済成長から物価の安定への最終目標の変更、銀行貸出総額を重視する運営目標、窓口指導や公定歩合や準備率操作を同時に使われている政策手段を論じる。

4では、金融政策が経済成長、対外貿易の発展に対してプラスの効果があったが、物価の安定にはマイナスの影響があった。これについて、簡単な実証も加える。

5では、金融政策運営に関連して、将来に金融業界、中央銀行の政策運営の傾向：銀行の民営化、自由化、金融政策運営の近代化に触れる。

経済体制改革と共に行われてきた金融管理体制改革は今でも進行中であり、もっとも自由な国際、国内経済環境の中で民間銀行業界と中央銀行管理体制の一層の改革が迫られる。

一つは銀行業界の民営化である。銀行業界の民営化とは、銀行を国あるいは政府の所有から解放し、実体の経済主体の所有にして、所有権の面から銀行自身の改革すなわち市場メカニズムにより行動させるように圧力をかけようとするものである。銀行業界の民営化には二通りの方法が考えられる。一つには、現在の專業銀行を株式会社にして、民間企業や個人に株式を売りさばき、專業銀行を政府と民間の共同所有、共同管理にするものである。もう一つの方法は、民間の銀行設立を自由にして、民間銀行と專業銀行の競争によって專業銀行の経営改善を促進するものである。

もう一つは金融業務の自由化である。国内の人民幣業務を駐中国の外国銀行など金融機関に開放し、外国の金融機関が国内の金融機関と同じ条件で人民幣業務を行わせることである。この人民幣業務の対海外金融機関開放の前提条件は人民幣の国際化であり、人民幣の外国為替レートは公定レートと市場レートを一緒にすることが人民幣国際化の一步であり、ガット（関税と貿易一般協定）の早期加入は人民幣の国際化にプラスになると思う。

又一つは中央銀行のマクロ的なコントロールの近代化である。以上のような金融業界の変化につれて、金融業界の競争の激化は必至になり、従来の窓口指導によって管理できなくなる金融機関が多くなるので、中央銀行は新しいマクロ的な管理方法を運用し、マクロ的なコントロールの強化を図らなければならない。